

第6回 常滑東小学校及び常滑西小学校の通学区域見直し説明会

(その他団体対象)

日時	平成25年6月13日(木) 19:00~20:20
場所	福祉会館 北館2F会議室
職員	加藤教育長、榊原部長、澤田課長、小竹指導主事、山本指導主事、竹内

○参加者： 男性 3名
女性 7名
合計 10名

○常東小保護者 : 6名
常西小保護者 : 0名
その他 : 4名

○北条地区 : 2名
奥条地区 : 3名
その他 : 5名

○1年生 : 1名
2年生 : 3名
3年生 : 0名
4年生 : 1名
5年生 : 1名
6年生 : 3名
該当無 : 5名(園児等)

○本日の流れについて（小竹指導主事より）

○あいさつ（加藤教育長より）

本日はご多用の中を、そして、お仕事や家事でお疲れのところをまげてお集まりいただき誠にありがとうございます。また、日頃は、地域の子どもたちの健全育成に向けて、それぞれの立場でご尽力いただいておりますことに対しまして、心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

はじめに、常滑東小学校と常滑西小学校の学区の見直しの問題につきまして、児童、保護者や地域の方々にご心配やご不安をおかけしておりますこと、まずもって心よりお詫び申し上げます。

さて、教育委員会としては、学区の見直しにつきまして、学識経験者、区長さん、小学校のPTA、子どもを守る会、幼・保育園の母親代表者、子供会の方、子育て支援の方や民生児童委員の方々、18名に検討委員を引き受けていただき、1月より4月まで7回の審議を経て4月25日に答申をいただきました。後程ご説明させていただく教育委員会案はその答申に基づいたものとなっております。この案では、427名の児童が常滑東小学校から常滑西小学校へ変わることになります。

私は学校と協力し、今後、このような取り組みを進めてまいりたいと考えております。まず、常滑東小学校の先生方には、子どもたちに学校が分かれても、君たちは友達なんだよ、仲間なんだよ。ということ。また、常滑中学校区はもともと一つであり、お祭りに象徴されるように旧常は一つなんだよ。ということ、友達や仲間の大切さを道徳、特別活動等の時間を利用して教えていただきます。

また、児童会等を利用して、そのことをテーマにして子どもたち自身にも考えて取り組んでもらいます。さらには、各行事等を利用し、子どもどうしの交流を進めていただきます。そして、3月のお別れのセシモニーへと持っていきます。また並行し、不安のある子は、教育相談の時間等を活用し、担任や必要があればスクールカウンセラーがフォローします。

来年度になれば、それぞれの学校で出発式が行われ、新たな学校づくりを始めます。常滑西小学校も、西小学校に東小学校の子どもを受け入れるのではなく、新生常滑西小学校をつくるというつもりで学校運営を進めますとおみえです。また、児童会でも、新しい学校づくりをテーマに取り組んでいくようにもっていきます。教員人事面では、常滑東小学校の子どもを知っている常滑東小学校の先生方にある程度常滑西小学校に移ってもらいます。

そして、年度当初の学年学級懇談会や家庭訪問等を利用して、家庭の様子を聞きな

がら進めます。5月ごろには、教育相談等の時間を活用し、子どもたちから様子を聞きます。その時にはスクールカウンセラーに助言をいただいたり、必要な子どもには、スクールカウンセラーとの面談の時間を取ったりします。

教師の観察だけでは気づけない部分があります。それを補うために、QUテストの導入も考えております。これは、不登校の可能性の高い子ども、いじめを受けている可能性の高い子ども、学校生活に意欲が低下している子どもを発見し、早期対応に繋げることができると言われております。

学校というところは、出会いがあり、別れがあるところ。そうした中で、子どもたちが生きてゆく力を身につけてゆくところです。学校はそうした機会を通して、子どもたちを育てていきます。

大震災を挙げるまでもなく、これからの子どもたちの長い人生の中で、悲しい別れを経験することになるかもしれません。学区の見直しにより、子どもたちに親しい友達と別れるという悲しい体験を強いるかもしれません。しかし、私は、この体験から子どもたちに大事なことを学ばせたい。悲しいことがあった時、友達はなくてはならない存在、仲間のありがたさ、だからこそ、絆の大切、そうしたことを子どもたちが学ぶ教育の場にしたいと思います。

常滑地区は昭和55年に常滑小学校を常滑東小学校と常滑西小学校に分けました。たぶん、その当時も、このような話し合いが行われたと思います。しかし、その当時の子どもたちは、保護者の方や地域の方々の協力や見守りの中で乗り切ってきました。また、常滑以外の地区でも、統廃合や通学区域の見直しは行われておりますが、子どもたちは大人たちが思っているよりもたくましく乗り切っていると聞いております。今回も、皆様方のご協力をいただき、子どもたちにとって価値ある機会としたいと思います。是非、今一度、子どもたちのために皆様方のご理解とご協力お願い申し上げます。

詳細については、担当よりご説明させていただきます。よろしくお願い申し上げます。

- 通学区域の見直しについて（澤田課長より）
（パワーポイント、配布資料に沿って説明。別紙資料参照）

<p>男性 1 (保育園年長)</p>	<p>Q 1 : 通学路について</p> <p>① 一木橋付近 現在でも2列で通ることはできないが、学区見直し後は200名が使用することになるので長い列ができてしまう。安全面の対策は考えているか？</p> <p>② かじま台、大阪屋付近 道が狭くて交通量が多い。 ドライバーに注意してもらおうと書いてあるが、どのようにして注意してもらおうのか？</p>	<p>A 1 :</p> <p>① 物理的に広げるのは不可能。線を引いたり、道路を舗装したりと路面上の施策は終わっている。大学の教授に相談したところ、例えばプラスチックのポールを建てることによってドライバーに子供が通るという意識を持ってもらうことができるという提案をいただいた。</p> <p>② 現在でも線が消えかかっている北に寄っているため、南に線を寄せることで北側を広げられる。さらに線を塗りなおすことによって、歩道と車道を明確にすることができる。道がないわけではなく、北や南に周る方法もある。専門家や警察に現場を見てもらって、やれることを考えていく。総合的に判断して一番よい方法を考える。</p>
<p>男性 1</p>	<p>Q 2 : 大阪屋付近ではダンプやマイクロバスが多いが、通学時間帯の交通規制はできるか？</p>	<p>A 2 : 交通規制は難しいと思われるが、通学路の表示といった看板の設置は難しくない。細かい点は通学区域が決定されてから検討する。今後、警察・自治体・学校・PTAと話をし、実現可能で効果があり保護者に支持される方法を選びたい。</p>
<p>男性 1</p>	<p>Q 3 : 奥条、北条、山方地区の通学路に街路灯の設置はできるか？</p>	<p>A 3 : 総合的な判断の中で考えなければいけないが、街路灯を設置すれば安全が確保されるということであれば検討したい。</p>
<p>女性 1 (常東小2、4、6年)</p>	<p>Q 4 : 第5案でコミュニティは分割しないとあるが、北条区はなぜイレギュラーなのか？</p>	<p>A 4 : コミュニティとはかじま台や飛香台のことを言っており、ひとつのまとまりのある町を分割しないという意味である。</p>
<p>女性 1</p>	<p>Q 5 : 保護者負担軽減について</p> <p>① いつ頃出た話なのか？</p> <p>② 補助とは一旦立替をして、そのあと申請するのか？</p> <p>③ ②の方法はいつ頃決まりそうか？</p>	<p>A 5 : 検討会の後半で出た話。こちらの都合で学校を変っていただくので考えとしてはもともとあった。具体的には決まってないが、例えば注文書を出してもらって現物を支給し、支払いは教育委員会でするのが簡単な方法だと思っている。早ければ今月中。細かい話は保護者会の後などで説明会を開いて話したいので、その時期に間に合うように具体的な方法を詰めたい。</p>

女性 1	Q6：常東小から常西小に移動する子供たちが、4月より前に常西小の学校の雰囲気を見ることはできるか？	A6：細かいことは決まってないが、考えている。通学路についても4月より前に歩いてもらうことを考えている。
女性 1	Q7：最終的な決定がされた後に保護者に報告する連絡会やお知らせはあるか？	A7：今回のような説明会の形は考えていないが、保護者負担軽減や通学路のことなど具体的な説明をするときに話したい。
女性 2 (常東小2、5年)	Q8：通学団について大阪屋の前を通学団なしで子供が歩くのは無理だと思うが、どうなるのか？	A8：常西小の校長と話した。今まで要望がなかったが、通学団に慣れた子供たちが来るので要望があればやらせていただく。
女性 2	Q9：津波が来た時に、常西小の校舎は流されないか？	A9：耐震工事は終わっている。耐震構造はできているので大丈夫だと思っている。東日本大震災で、校舎が津波で流された学校はなかった。
女性 3 (子どもを守る会)	Q10：通学路が最終的に決まるのはいつになるか？	A10：できれば年内に決めて、3学期には実際に歩いてもらう。
女性 4 (常東小2、4、6年)	Q11：卒業アルバムについて5年から常西小で過ごすことになるが、常東小で過ごした4年間はアルバムにどう残るのか？	A11：何らかの方法で6年間の記録が残るようにしたいと思っているが、学校と相談して何がよいか検討したい。大府小が大府小と大東小に分かれたので聞いたところ、あらかじめ集合写真を撮って、卒業アルバムに載せたとのこと。常東小の校長と話をして、分かれる前に集合写真を撮っておいた方がよいという話をしている。
女性 4	Q12：津波が来た時に、保護者が仕事ですぐに迎えに来られないかもしれない。事前にすぐに来られないことを知らせておいた方がよいのか？	A12：学校は子供たちの安全をまず考える。学校で子供の命を第一に守るので、事態が落ち着いてから保護者には家の様子を確認したうえで迎えに来ていただきたい。
女性 5 (常東小2、6年)	Q13：2年生の子や転入者には、同じ旧常でも未知の世界。通学団はぜひ実現してほしい。通学路の決定は、大人目線だけでなく子供目線で危ないところもいち早く教えていただいて、一度歩いてほしい。	A13：通学路についてはなるべく早く決めたい。相談するべきところは相談して、私たちが気づかない点があれば気軽にお申し付けいただきたい。
男性 2 (保育園年長)	Q14：①通学路を実際歩くのは3学期ということだが、実際に歩いてだめな点はケアできるのか？ ③ 子供目線で考えているのか？	A14：通学路を決めたうえで子供に体験してもらうのが3学期であり、決める時に現場検証をする。大人から実際に見て危ないところについて事前に対策を立て、大人だけでは気づかないところがあるかもしれないので子供に歩いてもらう。子供に歩いてもらった

		らその道がまったく使えないということはないと考えている。
男性2	Q15：4月から1年生になる子供も、入学する前に通学路を歩くような体験はできるのか？	A15：通学路が決まった最終段階においては声掛けをして、一緒に歩いてもらう機会を作っていきたいと考えている。
男性2	Q16：常西小に通学団がないと聞いたが、自分が常西小に通っていたとき（30年くらい前）は通学団があったはずだが、なぜなくなったのか？	A16：常西小付近は市街地で道が狭く、通学団で広がって歩くより、少人数の方が歩くときに安全なのではという判断で現在誘い合い登校を行っている。いつから始まったかはわからない。常西小の保護者は誘い合い登校の方が子供にとってよいだろうと言っている。常東小から変わる人が通学団での登校がよいということであれば、通学団で登校することを考えていくとよいと思う。
男性2	Q17：今回は常東小の児童が常西小に移るという前提の説明会なので、常西小の児童を優先するのではなく、まずは常東小の児童の保護者の意見を優先するべきではないか？	A17：常西小の意見を優先するとは言っていない。前から常西小にいた人が今のままでよいというならそこはそのまま、常東小から来た人が通学団がよいということなら作る。同じ学校の中で全部通学団でなければいけないということはない。それぞれの地区の要望に沿った形でやらせていただきたい。常西小にも通学団はある。ただ登校には使っていない。台風やいろいろなことがあったときは通学団ごとで帰ることはある。
女性6 (常東小1年)	Q18：児童センターに通っているが、北条区でもこども園の方に入れてもらえるのか？	A18：こども課に聞いた。常東小から来る人全部を常西小で受け入れられるかは不明だが、全体としての受け皿はあるのでどこかで入っていただく。全体の中で数を調整するので、場所は希望に沿えない場合もある。